

大都市と中小都市における橋詰広場の利用実態について

信州大学工学部 正会員 清水 茂  
信州大学工学部 ○学生会員 西尾 貴至

1、まえがき

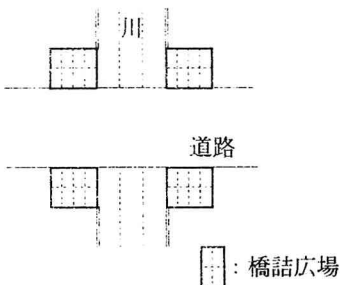
本研究では、大都市と中小都市における橋詰広場の利用実態についての調査をおこない、考察した。

橋詰広場とは、《図1》に示すように橋のたもとに存在する小空間のことである。

最近、都市での緑地の減少や日常生活におけるゆとりが見直されてきているために、都市空間の重要性がとりあげられている。橋詰広場はこのような都市空間の一種と考えられる。

江戸時代のころから、橋詰広場は、都市機能を持ち合わせた都市施設として利用されていたが、ここ数年、橋詰広場の都市機能の一部を担うこと、あるいは都市景観への影響などが注目されている。

そこで本研究では、上記のことを考慮して、大都市と中小都市、それぞれにおいて、都市空間としての橋詰広場がどのように利用されているか、その利用実態についての調査・研究を行うこととした。



《 図 1 》 橋詰広場

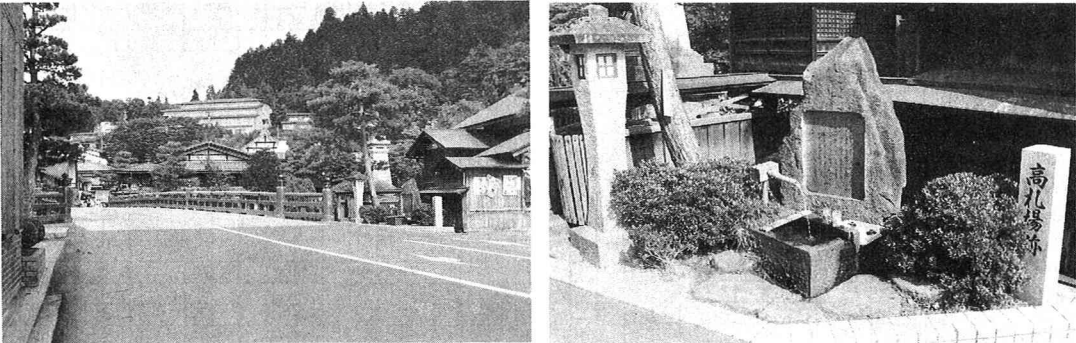
2、方法

橋詰広場の調査は、全国から任意に抽出した都市を対象とし、実際にその都市にある橋梁の架設地に赴いておこなった。さらに、対象とした都市は大、中、小都市別に分けるものとする。なお、大、中、小都市の分類と調査をおこなった一部の都市名は《表1》に示す。

《 表 1 》 都市の分類方法

|     | 人口規模(万人) | 都 市 名      |
|-----|----------|------------|
| 大都市 | 80～      | 大阪市、京都市など  |
| 中都市 | 30～80    | 新潟市、和歌山市など |
| 小都市 | 0～30     | 松本市、高山市など  |

現地では、橋詰広場がどのように利用されているか、その全体のようなすがわがわかるように写真撮影をおこない、その実態を記録した。その一例が《写真1》である。



《写真1》 橋詰広場の一例

《写真1》は高山市の例である。左側の写真で見られる橋詰広場を拡大して撮影したものが右側の写真である。これは橋詰広場が“植栽”として利用されている例である。

この他にも、橋詰広場は“交番”や“公衆便所”の設置場所などとして利用されている。

### 3、調査結果（一部）

《図2》は、その都市に、どれくらいの橋詰広場が存在していたかを調べたものである。

横軸には、実態調査した橋の総数に対して一か所でも橋詰広場を有する橋が何パーセント存在するかを、縦軸には、都市名を与えたものである。

《図2》からも分かるように、橋詰広場の存在している橋が、大都市では60%以上を占めているが、中、小都市では30%以下の都市が多く見うけられる。また、橋詰広場が存在している場合、大都市では緑地に利用されている場合が多い。

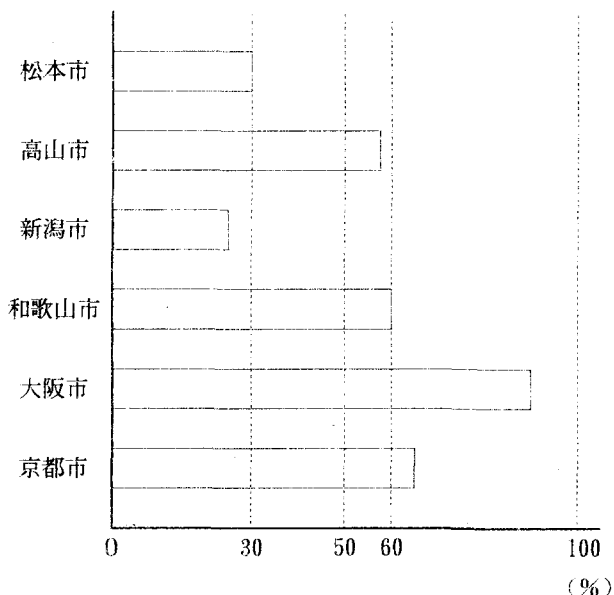
この要因として考えられることは、以下の3つである。

①都市空間は、中小都市よりも大都市のほうが必要とされている。

②中小都市よりも大都市のほうが、橋に取り付く道路の幅が広いために橋詰広場が設けられやすい。

③大都市では一般に緑地が少ないため、また、市民の憩いの場が中小都市より大都市のほうが少ないために、橋詰広場のような僅かな空間にも緑地を確保しようとする傾向がある。

ところで、中小都市の中でも高山市のように、橋詰広場の有する橋の割合が30%以上の都市もある。このような傾向は、観光都市で顕著に見られた。



《図2》 各都市における橋詰広場の存在率

### 4、まとめ

ここでは調査結果の一部のみを示したが、この調査結果の詳細、及び、総合的な判断については、現在もなお考察中である。詳細については、当日、発表をおこなう。

#### 《参考文献》

松村 博／橋梁景観の演出

土木学会編／街路の景観設計

国勢社／日本国勢図会 1992